

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	東青葉にじいろさぽ〜とひろば			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日 ～ 令和7年11月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和7年11月10日 ～ 令和7年 11月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ 保育園併設であるため、保育園職員と療育場面の支援をつなげやすい環境にある。支援内容を保育場面へ反映しやすく、一貫性のある関わりにつながっている。	・ 登降園時や日常のやり取りの中で、子どもの様子をこまめに共有している。 ・ 療育での様子を保育園での関わりに活かせるように意識して伝えている。 ・ 保育園での困り感を療育内容に反映するように心掛けている。	・ 日常的な情報交換に加え、定期的な簡易ミーティングや振り返りの機会を設ける。 ・ 療育と保育で共通して使用できる視点（困り感・できたことなど）を整理する。
2	複数職種が在籍しており、発達全般だけでなく、身体面・姿勢・動きの視点を取り入れた支援が可能である。多角的な支援で子どもの姿を捉え、支援内容を検討できる体制が整っている。	・ 子どもの姿を身体面・生活面・集団面などの複数の視点で捉えるように意識している。 ・ 理学療法士の視点を姿勢や活動内容、環境設定に取り入れている。 ・ 職種ごとの専門性を尊重し、意見を出し合える雰囲気づくりを行っている。	・ 専門用語や視点の違いをすり合わせ、共通理解を深める。 ・ 支援計画作成時に多職種の意見を反映する仕組みを整える。
3	少人数（5名程度）の小集団で療育を行っており、集団の中でのやり取りや模倣、社会性を育てる支援がしやすい。子ども一人ひとりの様子を把握しながら関わる事ができている。	・ 集団の中で一人ひとりの反応を丁寧に観察するように意識している。 ・ 模倣ややり取りが生まれるように、活動内容や配置を工夫している。 ・ 年齢や発達段階を考慮し、無理のない集団構成を心掛けている。	・ 小集団の中で役割分担や関わり方をより意識的に設定する。 ・ 集団の中での個別配慮を整理し、職員間で共有する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育室が一室のため療育の空間が限られており、個別対応や活動内容の幅が十分に確保できない場面がある。環境設定の工夫や活動の組み立てに更なる検討が必要である。	・ 空間が限られている為、同時に複数の活動を展開することが難しい。 ・ 個別対応やクールダウンの場を確保しにくい。 ・ 動的な活動と静的な活動を分けることが難しい。	・ 活動の時間帯や内容を工夫し、動的・静的活動を切り替えながら行う。 ・ パーテーションやマットを活用し、空間を用途別に区切る。
2	小集団を基本としている特性や課題が強い児童に対して、十分な個別対応が行いにくい場面がある。集団の中での個別配慮の工夫が課題である。	・ 小集団を基本としている為、個別対応に割ける人員・時間に限りがある。 ・ 集団全体への配慮が優先され、特定児への関わりが制限される場面がある。 ・ 2～5歳児という年齢特性上、集団の安定を保つ必要が高い。	・ 集団活動の中で個別目標を意識した関わりを明確にする。 ・ 必要に応じて活動前後の短時間を活用し、個別フォローを行う。 ・ 特性の強い児童については、支援方法を事前に職員間で共有する。
3	多職種による意見交換は行っているが、多職種の視点を十分に共有・整理しきれない部分があるため、支援方針や評価の整理・記録方法については改善の余地がある。	・ 日々の支援が中心となり、振り返りや整理の時間が確保しにくい。 ・ 専門用語や視点の違いにより、理解に差が生じることがある。	・ 記録様式や観点を簡潔に統一する。 ・ 短時間でも定期的な振り返りの時間を設ける。 ・ 支援計画や評価を職員全体で確認する機会を作る。